

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
道路事業	5	一般国道166号田引バイパス	松阪市	③	<p>【全体事業概要】 延長 L=5,000m 幅員 W=6.5(10.25~12.0)m</p> <p>主要構造物 橋梁 8基</p>	H6	8,505	89%	<p>整備済延長 L=4,230m うち供用延長 L=4,230m</p> <p>主要構造物(整備済) 橋梁N=7基</p>	<p>H17.1.1に、松阪市・嬉野町・三雲町・飯南町・飯高町の5市町が合併し、新「松阪市」が誕生。当バイパスは、新しい松阪市の西部地域と中勢地方生活圏との交流を支援する重要な路線であり、この状況に変化はない。</p> <p>平成20年度から平成22年度にかけて松阪市飯高町内の小学校及び保育園の統廃合が進み、通学に利用されるスクールバスが通行する国道166号の重要性が増している。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.2</p> <p>【コスト削減】 橋梁は、耐候性鋼材を使用し、道路法面は防草対策を実施し、将来の維持管理費の削減に努めている。</p> <p>また、現場発生土は、現場内流用及び他工事への流用に努めている。</p> <p>【代替案】 事業の進捗状況や地元から現計画(現道拡幅)での要望があることから、代替案はない。</p>	平成30年度の全線供用に向けて事業を推進する。
						S	6,778	89%				
						H30	1,727	91%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

平成25年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
道路事業	6	一般国道260号木谷拡幅	南伊勢町	②	【全体事業概要】 延長 L=1,272m 幅員 W=6.00(9.75)m 【事業目的】 幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能の強化を図る。	H16	2,249	74.4%	整備済延長 L=870m うち供用延長 L=870m 平成17年に旧南勢町の中学校3校が南勢中学校に統廃合され、また、平成26年度には、小学校3校が南勢小学校に統廃合されるため、宿浦・田曾浦の生徒はスクールバスでの通学が必要となる。しかし本事業区間はバスでの通行が困難であるため志摩市へ迂回しているのが現状である。 下津浦拡幅(H17年度完成)の整備により、木谷から神津佐の区間についてはバスの通行が容易になり効果が現れている。	【費用対効果分析】 B/C=1.1 【コスト削減】 道路法面に防草対策を実施し、維持管理費の削減を図っている。 掘削等による発生土は、工区内への盛土材としての利用や、他の公共工事への流用等に努め、コスト削減を図っている。 【代替案】 事業の進捗状況や周辺の地形・土地利用状況から、代替案はない。	平成27年度の全線供用に向け事業を推進する。	
						5	2,120	73.0%				
						H27	129	100.0%				

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成25年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						※当初(前回)	※当初(前回)					
						最終	最終					
道路事業	502	一般国道163号南河路バイパス	津市	<p>【全体事業概要】 延長 L=1,600m 幅員 W=6.5(15.0)m</p> <p>【事業目的】 幅員狭小の旧道区間から交通の転換を図るとともに、円滑性、安全性を高め、中勢地域における幹線道路網の構築により、交通利便性の向上を図る。 (1) 主要渋滞ポイントである殿村交差点の渋滞解消 (2) 中勢バイパスとの一体整備による、中勢地域の幹線道路網の構築 (3) 災害時のネットワークの強化</p>	H6	H19	2,135	<p>【費用対効果分析】 B/C=2.7</p> <p>【その他の効果】 ・安濃川の氾濫時においても、道路の通行機能が確保。 ・第二次緊急輸送道路である津芸濃大山田線の代替路線の確保。 ・中勢バイパスとの一体整備等、ネットワークが強化されたことにより、津市西部・伊賀市方面及び津市主要部方面へのアクセス路としての重要性が増大。</p>	<p>【自然環境面への配慮】 盛土部法面に緑化を施した。</p> <p>【生活環境の変化】 旧道区間の交通量は減少し、生活環境に関する特段の問題はない。</p>	<p>平成15年以降、津市内の工業団地における、工場立地件数の伸びが顕著である。 今後も中勢バイパスの整備と相まって、企業活動の更なる活性化が期待されている。</p>	<p>■地域住民の意見 住民アンケート結果では、約86%の住民が満足と回答している。最も改善されたと認識のある項目は「快適に走行できるようになった」。</p> <p>■道路利用者の意見 道路利用者アンケート結果により、約60%の利用者が満足と回答している。最も改善されたと認識のある項目は「快適に走行できるようになった」。</p> <p>■関係機関の意見 津市市役所は、交通事故の発生状況の変化に対し、「交通量の分散により、事故の発生が抑制されていると感じる。」と回答。 津市中消防署は、救急医療活動の支援に対し、「津新町駅近くの病院に安全・迅速に搬送することが可能になった。」と回答。</p>	<p>地域住民及び道路利用者から、交通渋滞や信号に対する不満の声があるため、今後交通状況を把握しつつ、所轄警察署と信号制御等のソフト対策を検討していく。 また、中勢バイパスの早期開通を望む声が多く、整備促進に努めている。</p>
					H21		2,309					

平成25年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						※当初(前回)	※当初(前回)					
						最終	最終					
道路事業	503	一般国道260号志摩バイパス	志摩市	<p>【全体事業概要】 延長 L=5,437m 幅員 W=6.5(13.5)m</p> <p>主要構造物 志摩大橋(L=582m)</p>	S63	H20	11,700	<p>【費用対効果分析】 B/C=1.4</p> <p>【その他の効果】 ■防災面に関する効果 志摩バイパスが第2次及び第3次の緊急輸送道路に指定され、緊急輸送道路網が強化された。 また、二次救急医療施設である三重県立志摩病院へのアクセスが向上した。</p> <p>■地域の活性化に関する効果 主要な観光地へのアクセス向上により、観光地の駐車場整備などが実施された。 また、道路整備を契機とした地域コミュニティの醸成やイベントの開催など、地域の活性化が図られている。</p>	<p>観光での利用が多い道路であり、観光客が目的地までの風景を楽しめるよう、景観に配慮した橋梁を整備。 国立公園に指定されるような風光明媚な地域であるため、法面を緑化や植樹帯の整備など、周辺の環境に配慮した。</p>	<p>■津波への対応 東日本大震災を契機として、沿岸部における津波への対応が強く求められており、旧道が熊野灘に面した比較的低地部を通過するのに対し、バイパスは英虞湾側の高台を通過することから、防災の観点からも志摩バイパスの重要性は高まっている。</p>	<p>■住民の意見 住民アンケート結果では、回答者のほぼ半数が毎日利用すると回答し、アクセス性や安心安全面の向上が評価され、8割以上が「大変満足」「満足」と回答している。</p> <p>■観光客の意見 観光客へのアンケート結果では、御座白浜海水浴場への来訪者の9割がバイパスを利用し、走りやすさや移動時間の早さが評価され、9割以上が「大変満足」「満足」と回答している。</p>	<p>住民アンケートで、地域の発展や観光への波及効果が十分でないという意見や、伊勢方面へのアクセス向上が求められている。このため、伊勢方面、更には名古屋・関西方面を結ぶ広域的な幹線道路ネットワークを強化し、広域的なアクセスの向上を図る。</p> <p>《実施中の事業》 伊勢自動車道と接続し、広域的な幹線道路ネットワークを形成する道路整備が進んでいる。 ・一般国道167号(鵜方・磯部バイパス) 道路改築事業(事業中/一部供用済) ・一般国道167号(第二伊勢道路) 道路改築事業(H25.9.14開通) ・一般国道167号(磯部バイパス)(平成24年事業採択)</p>
						H21	11,339					

平成25年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						※当初(前回)	※当初(前回)					
						最終	最終					
道路事業	504	一般国道311号波田須磯崎バイパス	熊野市	【全体事業概要】 延長 L=1,740m 幅員 W=6.0(8.0)m 主要構造物 磯崎トンネル(L=175m) 【事業目的】 未改良区間を解消し、安全で円滑な通行の確保及び、緊急輸送道路としての機能の確保を図る。	H2	H20	2,500	【費用対効果分析】 B/C=1.0 【その他の効果】 緊急輸送道路の機能を確保するとともに、御浜町阿田和地内の紀南病院(第二次救急医療施設)への走行時間が短縮。「命の道」としての機能向上が図られた。 また、地域住民及び関係者から、「魚の輸送時間が短縮された」「安全性が向上した」「観光バスを利用したツアー観光客が増えた」との声があり、沿線地域の産業・観光支援に寄与している。	整備に伴う変更範囲を少なくするため、現道区間をなるべく利用する平面線形とした。 周辺環境への配慮のため、法面の緑化を実施した。	■紀勢自動車道(熊野尾鷲道路含む)の整備 熊野尾鷲道路(三木里IC～尾鷲大泊IC)がH25.9.29に開通し、平成25年度末には、尾鷲北IC～尾鷲南IC間を除く全線が開通予定である。 残る尾鷲北IC～尾鷲南ICについても平成24年度に事業着手。熊野大泊IC以南についても事業化に向けた検討が進められている。 紀勢自動車道の整備により、国道42号や国道311号等の既存道路とともに、地域の骨格となる道路網が形成され、当地域の産業・観光の活性化が期待されている。 ■道路機能への期待の高まり 「南海トラフ巨大地震」の発生が危惧される中、「東日本大震災」や「紀伊半島大水害」の教訓をふまえ、防災意識が高まり、道路の防災機能に対する期待が高まっている。	沿線地域住民アンケートでは、回答者の約5割が「ほぼ毎日」「週に3～4回程度」当該事業区間を利用しており、約9割が「大変満足」「満足」と回答し「すれ違い困難区間の解消」「走行時間の短縮」について高評価を得ている。	国道311号の尾鷲市から熊野市に至る区間では、当該事業区間以外にも未整備区間が点在し、安全で円滑に通行できない状況であり、アンケート結果においても、「今回の整備区間以外にも未整備区間が残っている」に対する不満の声が挙がっている。 現在、熊野市遊木町地内の未改良区間の整備を進めているとともに、熊野市甫母町地内においても事業化に向け検討を進めており、今後も地域の重要な路線として整備に努めている。
						H21	2,522					